

# JOB REPORT

## 世界最高深度工事中ポンプ納入

### プロローグ

未だ昭和の終わり、一本の電話で始まった“東京湾横断道路”川崎人工島内ディープウェル用水中ポンプの話。当初、他メーカー数社競合となったものの、桜川の技術が高く評価され幾多の打ち合わせ、変更を重ねた。平成5年2月～7月にかけて、世界でも例の無い高深度対応形工用水中ポンプとして、合計24台が納入された。

前回のジョブレポートNo.30で東京湾横断道路工事の概要は説明済であるが、今後の川崎側のシールド発進基地となる川崎人工島のディープウェル水中ポンプは、いわば工事の心臓部となる。

### ポンプ概要

#### K-251形水中ポンプ×13台

- 使用水深…170m
- 口径…150mm
- 出力…30kW
- 全揚程…57m
- 吐出量…1.6m<sup>3</sup>/min
- 最大径…500mm

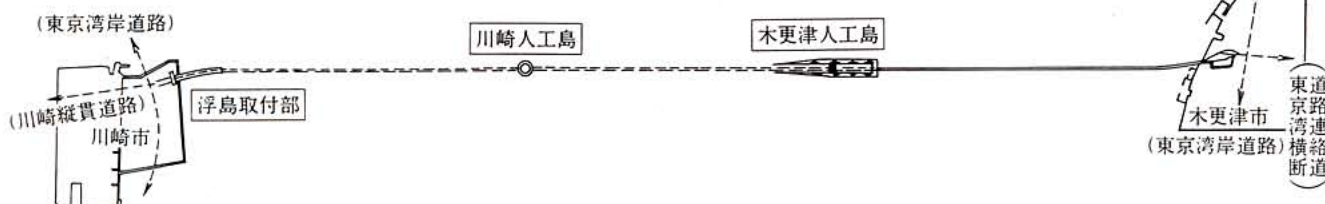
#### K-252形水中ポンプ×11台

- 使用水深…130m
- 口径…100mm
- 出力…30kW
- 全揚程…125m
- 吐出量…0.5m<sup>3</sup>/min
- 最大径…500mm
- 2段羽根構造

\* 工事の都合上、井戸最深部への設置対応のため、最大水深170mに耐え得る構造となっているが、今回納入ポンプの耐圧試験は1.96MPa (20kgf/cm<sup>2</sup>) 水深200m相当で行なった。



K-252形水中ポンプ



### エピローグ

K-251は3月1日より、またK-252は4月1日より稼働している。今後、関東圏の都市土木のみにとどまらず、国内、外の多方面でこういった高深度対応の水中ポンプが要求された時、この実績が業界を引っ張り、桜川の技術が脚光を浴びることと思われる。水中ポンプのパイオニアとして、また大きな勲章を手に入れたといえる。

最後に、基本設計当初より納入まで約5年間の長期にわたり御協力を頂いた関係各部署の方々に厚く御礼申し上げます。



K-251形水中ポンプ